

木戸堰の改修について

本堰は、沿岸一帯の耕地の地下水止めと潮害防止のため昭和三年に木戸橋下流二〇〇メートルの位置に構築され、以来地元土地改良区が中心となり、その維持管理に携わつてきました。しかし、その堰も五〇数年という歳月を経て、老朽化が進み一日も早い改修が地元関係者の長い間の悲願でもありました。

こうした実情の中で折悪しくも昭和六十年六月の台風6号による豪雨で栗山川が急増水したため、その対策（水門の開閉操作）に従事した土地改良区の役員が尊い一命を失なうという事態が発生し、一時は今後の維持管理にも支障さえ出たものです。

このため、町も事の緊急性を深く認識し、以来折にふれこれが早期改修実現を県当局に強く働きかけた結果、この度県河川課及び八日市場土木事務所の格別の計らいで当面既存の堰の構造物に補強を加え門扉の開閉を全て電動による自動巻上げに改修することになりました。

又、この事業は昭和六十一年度と六十二年度の二ヶ年で実施し、六十一年度は門扉（アルミ

製）と自動巻上げ機の製作・六十二年度は前記の据付けと土工事（操作橋の補強等）を実施し、完成します。これに係る事業費は、全て県費で賄い、その総額は一億六〇〇〇万円になる見込であります。

尚、本堰完成までの間、地元土地改良区の皆さんには何かとご不便をおかけしますが、その維持管理に当たっては、細心の注意を払い事故防止に万全を期されますようお願いし、併せて工事促進にご協力を願いたいです。

栗山川の

改修工事について

栗山川は、今日まで私達の生活用水・農業用水として、また

観光河川として重用な役割を果

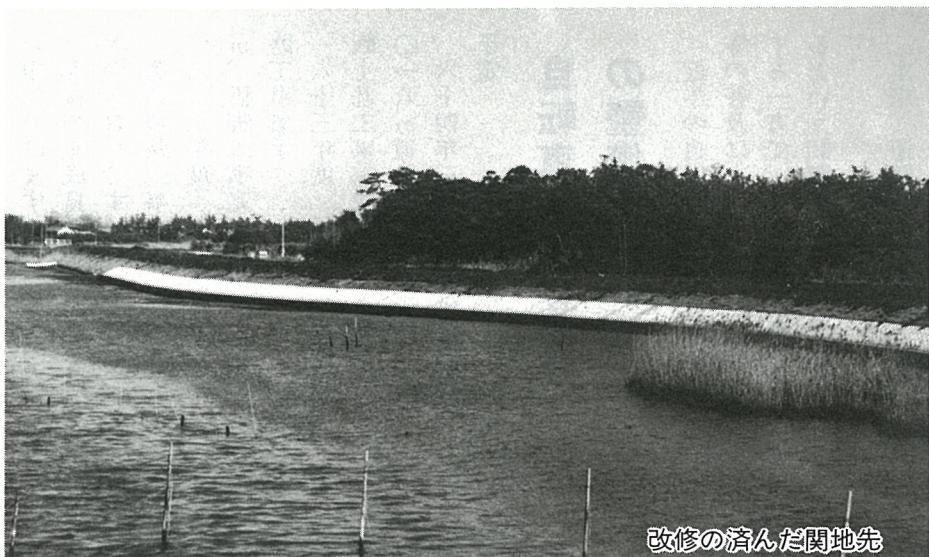
たため、町も事の緊急性を深く認識し、以来折にふれこれが

早期改修実現を県当局に強く働きかけた結果、この度県河川課及び八日市場土木事務所の格別の計らいで当面既存の堰の構造

物に補強を加え門扉の開閉を全て電動による自動巻上げに改修することになりました。

又、この事業は昭和六十一年度と六十二年度の二ヶ年で実施

し、六十一年度は門扉（アルミ



改修の済んだ関地先

篠本地有地の有効利用について

篠本地先にある

町有地十二ヘクタ

ール（帝人株式会

社跡地）について

は、帝人株式会社

が、コンクリート

二次製品工場の建

設用地として確保

されてきたところ

ですが、社会経

情勢の変化や、帝

人社内事情等によ

つて光町への工場

建設（企業進出）

が断念されたため、

町ではその後運動

公園を主目的とす

る公共用地として

するもので現在木戸橋付近を工

事中であります。

この工事の完成により常習的

な長時間滞水による農業災害や

家屋への浸水等の灾害を防ぐこ

とができるものであります。

一方、町内に安定した雇用の場の確保は以前から町の重要な課題であり、公害の無い優良企業の誘致を図り、町民生活の安定と地域経済活性化を図っていくことが重要であります。このことから、篠本地有地への企業誘致も検討し、本地土地利用については、運動公園と工場用地として、地域住民の皆さんのご理解、ご協力をいただきながら事業化してまいります。

